

横芝の碑

(その四十六)

隠れた郷土の教育者 林平翁

今から百数十年前、中台村に伊藤林平という隠れた郷土の教育者がありました。

林平は、村でも地所持ちといわれる農家に生まれましたが、幼い時から学問が好きで、新しい馬耕方法等学んだことを営農に生かすのを何よりの楽しみとする、今でいう篤農青年だったのです。

ところが、林平が三十八歳の時ふとしたはずみで馬から落ち、左脚を骨折して労働ができない軀に

なつて終いました。稼業ができて

い軀となつた林平の落胆は大変なものでした。しかし、林平が学んで

いた知識は、農業のことだけではなかつたのです。人の生きる道

郷土を愛する精神、風月を友とする道も学びとつていました。心を

一新した林平は学問の道に精進する決心をしました。

前々から林平の学識と人柄を知つて、いろいろと訪ねたりして

いた近隣の青年達は、林平が学問に

専念している話を伝え聞くと、一

人集り、二人集り、時には誘い合

つて林平を訪れ、進んで門下生としての礼をとるようになってき

ました。林平は殊更之を嫌うことな

く、気易くその申出でに成りてそ

の指導に当り、時にはお互いの論

談に花を咲かせたりして、堂々とした識見と、論理は身体

の人は独りてに頭を下げる、という立派な態度を持っていました。

また、林平の家族も林平の教えによつて郷土愛に徹して、

で、一緒になつて青年達の面倒を見ていました。終いには、青年

達の集る場所として別に寺小屋代りの一室を建てたりしました。

そんな具合でしたから、いくら

地所持の農家といつても、決して

楽な生活とはいへませんでした。

林平は、酒等も一切止めて集つて

来る青年の費用に充てながらも、

家庭の生計については全く意に介

しませんでした。

やがて明治の御代になり、中台

村にも学校ができました。林平も

七十歳を過ぎて、林平翁と称され

ながら、風月を楽しんでいました

が、翁の教子達は誰も翁の恩を忘れませんでした。そして、皆でお

金は集め翁の古希の祝を兼ねた顕

彰碑建立の話が決まりましたので、

翁の内諾を得ようとしたところ、

「何故そんな事をするのか、私は

郷里のためになるようにと教えた

筈だ、そういう金があつたら学校

に本でも買ってあげなさい。」と叱りつけ、自分も所蔵していた

本を沢山差出したのです。恐縮した人々は早速本を購入し、翁が寄

附を申出られた本と共に学校に贈り、更にお金がありましたので、

始めの計画よりははるか小さく、題字も、寿碣銘とするということ

で漸やく翁の了解を得たという話です。こうした翁の言行は何時か

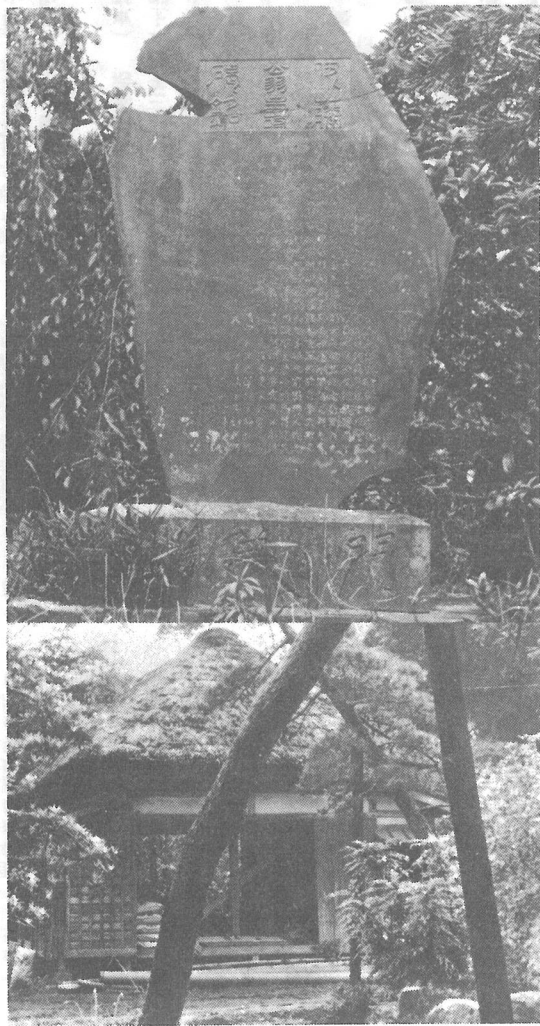
官庁等の耳にも入り、大杯を贈つて翁の功績を讃えました。

とかく己の行為を誇示したがる

人々の多い世の中に

石となり、しかも毅然として卑屈

さを見せなかつた翁の姿勢を、私



寄稿)

若し、見学希望の場合は面倒でも広報係に御連絡をお願いします。(町文化財審議会委員小沢春光氏)